

地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院 平成23年度の業務の実績に関する評価結果の概要

1 地方独立行政法人の評価制度

県は、地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院（以下「法人」という。）が5年間で達成すべき目標（以下「中期目標」という。）を定め、これに対し法人は、中期目標を達成するための計画（以下「中期計画」という。）を作成し、中期計画に従って5年間の業務運営を自主的・自律的に行う一方で、法人の業務の実績を第三者機関である評価委員会が事後に評価する制度が設けられました。

評価委員会は、法人が5年間で中期目標を達成できたかを評価することになりますが、各事業年度においても、中期計画の実施状況の評価し、中期目標の達成に向けて順調に進んでいるかをチェックすることになっています。

2 評価結果の概要

全体評価 B（中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる）

S	中期目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある（評価委員会が特に認める場合）
A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
B	中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる
C	中期目標の達成のためにはやや遅れている
D	中期目標の達成のためには重大な遅れがある

大項目	評価の内容（特筆すべき点・課題）	
住民サービス等の質の向上	特筆すべき点	<ul style="list-style-type: none"> ○産科医不足の中、より質の高い医療を提供するために、年俸制を導入し産科医を速やかに確保したことは評価できる。引き続き医師の確保に尽力し、新病院開設後の病院経営を安定化させる努力をされたい。 ○看護学生の実習受け入れや救急救命士の研修実施については堅調な状況である。 ○医師不足地域への医師派遣などの診療支援を積極的に行っており、病院の有する高度医療機器に関しても地域の開業医との共同利用が行われている。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○近隣の医療機関との役割分担を明確にするとともに、より連携を深めることで、さらなる紹介率・逆紹介率の向上を図り、将来的には施設基準の取得に向けて経営安定化を実現されることを期待する。 ○独自の臨床研修プログラムを開発し、地域医療を志す医師の養成に努めるとともに、特色ある病院運営を目指されることを期待する。
業務運営の改善及び効率化	特筆すべき点	<ul style="list-style-type: none"> ○医療従事者の負担軽減対策として医師事務作業を補助する職員の採用が進められ、医師事務作業補助加算がアップしたことは評価できる。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○定年を迎えた職員のうち、病院経営に寄与すると認められる職員を再雇用する制度の整備やアウトソーシング導入による合理化は、引き続き次年度に努力されたい。また、新病棟の整備に向け、病床利用率の向上策及び平均在院日数の目標設定について、取り組むべきと思われる。
予算、収支計画及び資金計画	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○経常収支比率が低下しており、中期計画期間中の100%達成に向けて努力されたい。また、新病棟建設後の経営方針・経営計画を速やかに策定し、赤字改善に向けて積極的な取組みをすべきである。